

04

スマートウェルネス シティ札幌

— 札幌市、北海道、日本
2013年～

地下空間とICTの活用によるウォークラブルな都市の構築

Key Issue

札幌市においては、高齢化による医療費の増大、自動車交通への依存による環境負荷が課題になっていた。また、産業面においてはICT産業の集積が進んでおり、そのさらなる育成を図るとともに、この強みを活かして都市課題の解決を図ることが企図された。

Project Approach

地下空間の整備とICTの活用による歩行と公共交通利用の増進

都心商業圏の回遊性を高め、四季を通じて安全で快適な歩行空間を確保するため、地下空間の整備を行った。
また、近年、スマートフォンのアプリケーションで計測した歩行数などに応じて公共交通で利用可能なポイントを付与することで、市民の健康意識を高めつつ、公共交通の利用を促進する実証実験を実施している。



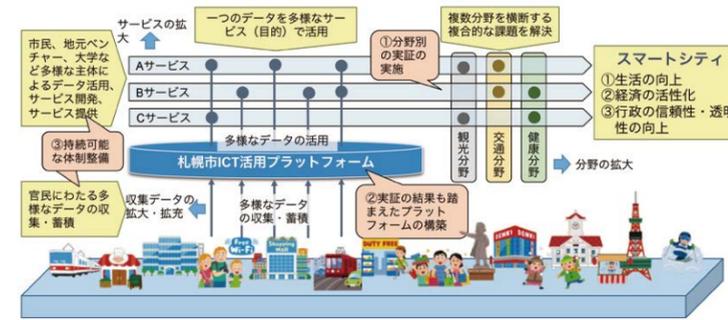
地下空間は、様々なイベントも開催される交流スペースが配置され、市民にとって歩くだけではなく、楽しい空間になっている。またICTを活用した取組みも実践されている。

データ活用によるイノベーションの促進

札幌市は、北海道大学の存在や自治体の産業戦略によってICTベンチャー企業の育成が進んでいる。こうしたICT企業のイノベーション促進に向けて、札幌市ではデータのオープン化やそれを集積して利用を容易にするデータプラットフォームの構築が進められている。既にこれらを活かして、人流と購買データの分析に基づきインバウンド観光客の動態把握を行い、品揃えやプロモーション検討することや、観光アプリ利用者におすすめスポットをPUSH配信して郊外施設に誘客するシステムの開発等が行われるなど、幅広い都市課題の解決に向けてデータを活用する取組みが行われている。



地下空間は、二極化している都心商業地区を結び新たな都市空間に発展している



札幌市では官民の様々なオープンデータ、ビッグデータを活用するプラットフォームの構築が進んでおり、サービス提供やオープンデータ化において多様な主体が参画可能な環境を整備している。プラットフォーム構築とあわせて都市課題を解決する実証事業が実施されている。 出典：札幌市

Data

規模 札幌駅前通地下歩行空間 約520m
オーロラタウン 約310m、ボールタウン 約400m
事業主体 札幌市など
人口 札幌市人口 約197万人(2019年7月1日時点)



To the Next Phase

歩行増進用に取得している歩行者データを、オープンデータ化を進めている他のデータセットとも組み合わせ、それらのデータの分析に基づいて都市施設や交通機関の整備・運営を行うことで、さらにウォークラブルなまちづくりを目指すスマート・プランニングの実施が計画されている。